



福山コンサルタント 福島 宏治 社長

新規分野に着々と布石

第3次長期プラン2年目の2015年6月期は、2期連続で売上高60億円を達成し、過去最高の純利益となるなど「シナリオを上回る滑り出しとなった」。

「受注は2割ほど増加している」現状だ。業務量増加にはオペレーションで対応し「人員異動や事業部門間の業務移管などの施策が機能して残業時間も若

干減り休暇の取得も増えた。効率的な業務体制が整ってきた」。

業務面では福岡と東京の2核化が鮮明になった。特に東京での交通系、鉄道系、CM系(コンストラクション・マネジメント)業務が堅調だ。CM系業務の受注量は前期の5割増しとなり、来期に事業部化も視野に置く。また、自社株の取得なども戦略的に進め、上場会社として

ズ、地域環境を見極めた柔軟なものに進化させる」考えだ。

14年度に設置した新規事業推進室から「いろいろな芽が出てきている」という。具体的には、国の採択を受けた久留米大橋の無線センサーによる観測システムやスマートフォンでの位置情報を活用した新技術は実用化に向けて実証実験が進み、交通量の簡易計測システムは15年度中の

つ。同時に、受け皿となるホールディングス化に向け、管理部門を集約した新会社を15年度中に設立する。

社内報の編集長に女性職員を抜擢した。あわせて、ワーク・ライフ・バランスと業務報酬の委員会を立ち上げ、自らも協議に参加する。「女性の活躍の場を掘り起こし、社員と直接話をしながら次の世代に魅力ある職場の構築につなげていく」と強調する。

の足元も固まってきた。「拡大戦略の準備を着実に進めた1年だった」と振り返る。

16年は長期プランの後半戦に入る。「現在、プランの一部見直しを進めており、今年度中にバージョン2をまとめる。基本的な部分は変更せず市場のニ-

市場投入を予定している。

他社との連携で点検ロボットの開発を進めるなど新ビジネスの事業化も進む。「コンサルタントの枠組みを超えて積極的に異業種とコラボレーションするなど、M&Aも含めて新規分野の具体化に着々と布石を打

「西甲(ひのえまる)は物事の形が定まっていなく、長期プラン前半で検討してきたものが、ことしから1歩ずつ実現する予感がする」と期待を膨らませる。長期プランの目標(19年7月期)に掲げた100億円の企業集団に向けて「市場全体が変化を後押ししてくれる。達成は十分に可能」と自信を見せる。